

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200651		
法人名	株式会社 小野		
事業所名	グループホーム 吉岡 楽々苑		
所在地	倉敷市吉岡344番地		
自己評価作成日	令和 2年 9月 7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200651-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200651-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 2年 9月 16日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりが自由に過ごせるよう支援している。本人の意思を尊重しながら、自己決定を促している。意思を伝えるのが困難な方にはご家族と協力し、望んでいるであろう事を提供するよう努力している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「コロナ！コロナ！」と騒がれている時に、「従来どおりのことができない」、「何かを特別にしてはいけない」とか、「まあいいだろう」と逃避していない事が、他者からは、全く新しい事に挑戦している様に見える。「そうではないんだよ」、「当たり前のことをしているんだよ」、「今出来ることをやっいてこうとしているだけだよ」と憤っている姿が職員に感じた。また、事業所の暖簾であるリビングの広さ、家具・ピアノなどにも形成され、そのリビングに漂う空気が自然と職員に調和し、施設の礎となっている。職員一人ひとりのハートにしっかりと落ち着き、しっかりと心に植え付けられ、今まで培った職員の得心にふれたのは言うまでもない。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にっ なげている	運営理念に基づいて、コロナウイルス流行前はボ ランティア等地域の方々との交流を深めた。	事務所に理念を掲示し、毎月の全体会議の中で 理念についてふれるとともに振り返っている。新 人職員に対しては、3ヶ月の間に毎月面談を行 い、その中で理念にふれて納得できるようにして いる。	経営理念を、もっと具体的に細かく日々 の方針として置き換え、さらなる浸透に心 がけてはいかがでしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、 事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの感染防止対策をし、3密や接触を 避けた上で、近所の公園への散歩やドライブを実 施した。	ボランティアは自粛中だが、町内の清掃活動には 参加しており、地域との付き合いがなくなるよ うにしている。また、隣の公園が馴染みの人や新 たな人との出会いの場となっているので充実した 散歩として出かけている。	事業所の存在感を今以上にアピールする ために、外部講師をしている施設長以外 にも、事業所内で講師を要請して、地域 に貢献してはいかがでしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の 理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしてい る	介護相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価へ の取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そ こでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域の方や施設代表の方に取り 組み内容の現状をを報告するとともに助言を頂い た。また、活発な意見の交換を行った。	隔月に開催。町内会長、民生委員、高齢者支援 センター、他の法人グループホームや利用者や 家族の代表者が参加している。また、会議資料に ついてのアドバイスを受けて、時事や話題の情報 交換を行っている。現在は、家族会と秋祭りに代 わる催事を検討しながら会議を活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実 情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、 協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターとの情報交換を行い、入居希望 者の受け入れ態勢を作っている。	地域包括支援センターとは、信頼関係が築けて おり、市町村との連携は施設長が窓口となってい る。運営推進会議の案内を配布したり、事故報告 を促している。市から研修の案内があれば極力 参加したり、地域の独居の方の情報を共有したり している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止 の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄 関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んで いる	玄関の施錠は防犯上行っているが、職員が付き添 い出入りできる状態にしている。身体拘束は行って いない。また3か月に1度身体拘束委員会を実施し ている。	身体拘束はしておらず、3か月毎に身体拘束に関 する研修会を行っている。その際に議事録を作成 し、スタッフと共有できるようにしている。「ちょっと 待って」や「座っておいて」の日頃当たり前に使っ てしまう発言にも注意しており、スピーチロックを しないような配慮がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学 ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が 見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めて いる	年に1回以上研修を行っている。事例をもとにスタッ フ同士で話し合いをしたり事業所内で起こりうる内 容がないか確認をしている。また、日々の介護の 中でもスタッフ同士で対応に問題がないか話し合っ ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施することで理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改正時はその都度施設長または管理者がご家族に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、家族会を実施している。面会時やケアプラン更新時にもご家族と話をする機会を設けている。	日常会話や見舞いや家族会の時に出たちょっとした話から思いを汲み取り、反映できるようにしている。最近では、家族から趣味の発掘や運動をして欲しいとの要望があったので、外出計画やケアプランに活かし、成果が出てきた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、個人面談を行っている。	勤続年数の長い職員が半数以上いて、職員同士のコミュニケーションが深く通い、新たまって申し送りをする必要がなくなる関係ができていく。また、施設長や管理者とは気軽に話せる関係が出来ていて、年2回の個人面談にも繋げ、その意見を参考にし、業務に盛り込んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の評価を下に代表者は働きやすい環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人入社時、1ヵ月おきに3ヶ月間自己評価と面談を行っている。また、普段からもスタッフの対応をみながら指導を行っている。社内研修や外部研修にも参加してもらい、知識と技術の習得、向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種外部研修への参加を促し、スキルアップを図るとともに他施設職員との交流等からより良いサービス、ケアを自施設でもできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅等、アセスメントに訪問し情報収集をし、環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談や電話でのやり取りで情報収集を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報収集をもとにケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの生活スタイルに合わせ、スタッフが主体にならないようにしている。本人と話しながら希望を聞き取るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの感染防止対策を徹底した上での制限付きでの面会を実施して、共に過ごせる時間を作るとともに、情報を共有したり、要望を伺う機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診の帰りに短時間でも自宅に寄る等、関係が切れないよう、また、本人様がリラックスできるような時間を設けている。	遠出が出来ないので時期なので、ドライブ中に自宅周辺を通っている。また、隣の公園を散歩して、馴染みの場となるように工夫している。海の近くに住んでいた他県の方には、記憶をくすぶるように海にお連れしたり、墓参りや身内の結婚式に参加することで利用者の楽しみを増やしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性や過ごし方の好みを把握し、自席の位置を工夫したり、一緒に過ごせる時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に、困ったことがあれば連絡して頂けるようお願いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、本人の要望を聞くようにしている。意思を伝えることが困難な方にはご家族に聞いたり生活歴から汲み取るようにしている。	普段の会話から利用者の思いや意向を把握できるようにしている。あまり会話のない利用者については、普段の行動や表情から思いを把握できるようにしている。また、入浴時や夜間の個別対応時に意見が出やすいので、些細なことでもじっくりと話を聞いて活かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族との話し合いの中で聞き出している。必要に応じてフェイスシート等を確認し、本人を理解してケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録にしっかりと残し、統一した介護を心掛けている。また、小さな変化を見落とさないよう、関りを大切にして気が付いたことは申し送り等で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のスタッフ会議で話し合いをし、ニーズに合わせたプラン作成に努めている。それ以外でも、必要に応じて話し合いを実施している。	ケアプランは入居時、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月と見直し、利用者の状況に合わせてモニタリングも行っている。月1回のユニット会議でも、利用者全員を対象としたカンファレンスを行い、モニタリングに活かしている。計画作成担当者を中心に医療関係者の意見を有効に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた内容を記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対し、早急な対応が必要な場合には、ミーティングを行い、迅速な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害時の避難協力を町内の自治防災組織に依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には24時間対応しているクリニックをお願いしている。時間問わず対応して頂いている。	往診は2週間に1回。入居時は24時間対応の提携医がほとんどだが、以前からのかかりつけ医を継続される利用者も時にはいる。転院するかどうかは選択でき、通院は基本、家族が送迎している。看護師が医療に関しては受け持ち、協力医と連携しながら利用者に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、細かな変化や判断に迷うことは看護師に報告し、適切な診療が受けられるよう連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院前にはカンファレンスを行い、退院後も対応が変わらないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護を行う際、ご家族との面談を何度も重ね、希望に添うような対応をしている。本人にもその都度要望を聞くようにしている。	看取りは行っている。重度化の際は、医師と相談しながら、治療するかどうかで受け入れ態勢を調整している。入所時に、管理者が指針と共にグループホームで出来る事や状態が変化した際にはその都度毎、家族に詳しく説明をしている。また、年1回施設長及び看護師による看取り研修も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスク委員会作成の事故発生対応マニュアルを活用し、事故発生時はマニュアル通りに対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。	昼夜想定の下に、三密を考慮して柔軟に対応し、出来る範囲で訓練を開催した。備蓄は近所の本社で一括管理していて、緊急時には連絡網を実践形式で回していた。水消火器や救命機器の指導を受けたり、水害対策としてコンクリートの塀を作ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者様の人格を尊重して、温かい声掛けに努めている。	基本は苗字を「さん」付けだが、利用者の好みに応じた呼び方をするときは、家族の了解を得てから呼ぶようにしている。また、プライバシー研修も年1回実施していて、大きな声や他の利用者に分かる言葉掛けをしないように配慮している。そして毎月のスタッフ会議で気づきを促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者側の都合を優先せずを選択できるような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムや好みを尊重して、無理のない過ごし方をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容に加え、化粧品をお持ちの入居者様にはつけて頂いたり、外出時にはお洒落をしたり、好みのものを身につけて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き、手作り昼食の日を作ったり誕生日に外食に行っている。	月2回リクエスト昼食会を開催していて、楽しみを増している利用者が多い。敷地内の菜園でとれた野菜を盛り付け、季節を味わってもらっている。また、利用者と共におやつの手作りをして、どら焼きやケーキ、パフェと一緒に食し、楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形状や皿の形を工夫して、食べやすい環境作りに努めている。水分摂取拒否のある方に対し、小さいコップに少量ずつ提供し「薬が入っている」と声をかけたり工夫をしている。また、1日の食事量、水分量を記録し栄養不足や脱水に陥らないよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握や下剤服用を一人ひとりに合った時間や内容にしている。	日中は車イスの利用者もトイレで排泄し、夜間は利用者に合わせてトイレ誘導やバット交換で対応している。利用者の排泄パターンを把握し、的確に薬を使う事で衛生材料の消費を少なくさせたり、状態を改善させたりしている。また、ポータブルトイレは使用しないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用するだけでなく、おやつにバナナジュースを飲んだり、畑で採れた野菜を食べている。散歩や体操、体を動かすレクへ参加して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフのいる時間帯でなるべく好きな時に入って頂くようにしている。	入浴は週3回。希望すれば毎日の入浴も可能で、車イスの利用者もたつぷりと浴槽に浸かれ、もったりとしたお湯を親しんで頂いている。入浴を拒む利用者は、時間を空け、適切な言葉掛けして誘導している。ゆず湯や入浴剤を使うこともあり、情緒を感じてもらえるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度で、適宜休憩時間を設けている。日中も眠気が強い時は休んで頂き、夜間眠れない時は無理に寝かしつけない等柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに最新の薬情報を入れ、誰でもすぐに分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かしながら、生活リハビリとして掃除や洗濯、食事準備等行ってもらっている。また、歌、楽器演奏、読書、ゲーム等本人様にあった活動をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染対策をした上で、近所の散歩をしたりドライブにお連れしたりしている。また、家族に協力を仰いで、短時間の帰宅する機会を設けたりしている。	隣の公園や近隣へ行った際に交わった人とあいさつをかわしたりして、日々を謳歌している。また一日一度は、玄関から外へ出ていただくような支援を重要視しているので、コロナの影響だから遠出が出来ないのではなく、畑の収穫を行うなどの身近にできることを取り入れて利用者に有意義な時間を過ごして頂いている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はしていないが、外出先での買い物では本人が支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に年賀状を出したり、電話でのやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースや玄関に季節の花を飾ったり、利用者様と一緒に作ったカレンダーを飾り、季節を感じられるようにしている。大きな音やまぶしすぎる光が無いように配慮し、室温もこまめに確認し管理している。	広いホールの天窗から差し込む眩しい光を布で遮り、明るさを調整している。三密が計りやすい広さがあるフロアなので、自分の好きな場所で寛いでいる様子が窺えた。ホールには利用者と一緒に作成した、いかにも金運が舞い込みそうな黄金の神社の模型があり、毎日楽しみにお参りや賽銭を投げ込む利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを置き、1人でゆっくりと過ごしたり、利用者様同士で談笑できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた馴染みの物や家具を入居時に持って来ていただき、使用して頂いている。配置も相談しながら決めている。	介護ベットがレンタルでき、防災カーテンが常設されている。利用者の使い慣れたテーブルや椅子が置かれ、手紙やハガキ、家族写真などが利用者の励みとなっている。居室内で読書をしたり、ハーモニカを吹いたり、大正琴を弾いたりして、自分の時間を楽しく奏でている空間ともなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー構造で、壁には手すりが設置されている。本人様の歩行状態を考慮した動線作りに努めている。必要に応じて、リビング、居室の模様替えを実施している。寝具についても生活歴に合わせてベッド、フロアマットを選択し対応している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200651		
法人名	株式会社 小野		
事業所名	グループホーム 吉岡 楽々苑		
所在地	岡山県倉敷市吉岡344		
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 9 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200651-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200651-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 2 年 9 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の介護サービス、尊厳の保持、個人の尊重など基本的な介護サービスの質の向上。  
自分が入居したいと思える、入居者様が日々笑顔で過ごせる介護サービスの実施。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「コロナ！コロナ！」と騒がれている時に、「従来どおりのことができない」、「何かを特別にしているはいけない」とか、「まあいいだろう」と逃避していない事が、他者からは、全く新しい事に挑戦している様に見える。「そうではないんだよ」、「当たり前のことを行っているんだよ」、「今出来ることをやっいてこうとしているだけだよ」と憤っている姿が職員に感じた。また、事業所の暖簾であるリビングの広さ、家具・ピアノなどにも形成され、そのリビングに漂う空気が自然と職員に調和し、施設の礎となっている。職員一人ひとりのハートにしっかりと落ち着き、しっかりと心に植え付けられ、今まで培った職員の得心にふれたのは言うまでもない。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	運営理念に基づき、ボランティア等地域の方々との交流を深めている。	事務所に理念を掲示し、毎月の全体会議の中で理念についてふれるとともに振り返っている。新人職員に対しては、3ヶ月の間に毎月面談を行い、その中で理念にふれて納得できるようにしている。	経営理念を、もっと具体的に細かく日々の方針として置き換え、さらなる浸透に心がけてはいかがでしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物等の際、挨拶を行っている。	ボランティアは自粛中だが、町内の清掃活動には参加しており、地域との付き合いがなくなるようにしている。また、隣の公園が馴染みの人や新たな人との出会いの場となっているので充実した散歩として出かけている。	事業所の存在感を今以上にアピールするために、外部講師をしている施設長以外にも、事業所内で講師を要請して、地域に貢献してはいかがでしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談を受けたり、地域の小学校からの学区探検の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	困難事例等の意見を頂き、参考にさせて頂いている。	隔月に開催。町内会長、民生委員、高齢者支援センター、他の法人グループホームや利用者や家族の代表者が参加している。また、会議資料についてのアドバイスを受けて、時事や話題の情報交換を行っている。現在は、家族会と秋祭りに代わる催事を検討しながら会議を活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターとの情報交換を行い、入居希望者の受け入れ態勢を作っている。	地域包括支援センターとは、信頼関係が築けており、市町村との連携は施設長が窓口となっている。運営推進会議の案内を配布したり、事故報告を促している。市から研修の案内があれば極力参加したり、地域の独居の方の情報を共有したりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯上行っている。3ヶ月に1回、身体拘束委員会を開催している。	身体拘束はしておらず、3か月毎に身体拘束に関する研修会を行っている。その際に議事録を作成し、スタッフと共有できるようにしている。「ちょっと待って」や「座っておいて」の日頃当たり前に使ってしまう発言にも注意しており、スピーチロックをしないような配慮がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回以上研修を行っている。事例をもとにスタッフ同士で話し合いをしたり、事業所内で起こりうる内容がないか確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改正時には、その都度施設長または管理者がご家族に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、家族会を実施している。面会時やケアプラン更新時にもご家族と話をする機会を設けている。	日常会話や見舞いや家族会の時に出たちょっとした話から思いを汲み取り、反映できるようにしている。最近では、家族から趣味の発掘や運動をして欲しいとの要望があったので、外出計画やケアプランに活かし、成果が出てきた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、個人面談を行っている。	勤続年数の長い職員が半数以上いて、職員同士のコミュニケーションが深く通い、新たまって申し送りをする必要がないくらい関係ができています。また、施設長や管理者とは気軽に話せる関係が出来ていて、年2回の個人面談にも繋なげ、その意見を参考にし、業務に盛り込んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の評価をもとに代表者は働きやすい環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人入社時、1ヶ月おきに3か月間、自己評価と面談を行っている。また、普段からもスタッフの対応をみながら指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「地域密着型サービス専門分科会」「小地域で認知症を支える会」等への参加で有意義な情報交換に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅等、アセスメントに訪問し情報収集をし、環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談や電話でのやり取りで情報収集を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報収集をもとにケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの生活スタイルに合わせ、スタッフが主体にならないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族とのドライブをして頂いたり、遠方で面会が難しい方はご本人と電話を楽しんで頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と定期的にお墓掃除に行かれたり、お孫さんの結婚式に参列された。	遠出が出来ないので時期なので、ドライブ中に自宅周辺を通っている。また、隣の公園を散歩して、馴染みの場となるように工夫している。海の近くに住んでいた他県の方には、記憶をくすぶるように海にお連れしたり、墓参りや身内の結婚式に参加することで利用者の楽しみを増やしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自分の席だけで過ごすのではなく、自由に移動され声をかけられたり、一緒に過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に何かあれば連絡を下さいと声をかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、本人の要望を聞くようにしている。意思を伝えることが困難な方にはご家族に聞いたり、生活歴からくみ取るようにしている。	普段の会話から利用者の思いや意向を把握できるようにしている。あまり会話のない利用者については、普段の行動や表情から思いを把握できるようにしている。また、入浴時や夜間の個別対応時に意見が出やすいので、些細なことでもじっくりと話を聞いて活かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族との話し合いの中で聞き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録にしっかりと残し、統一した介護を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のスタッフ会議で話し合いをし、ニーズに合わせたプラン作成に努めている。	ケアプランは入居時、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月と見直し、利用者の状況に合わせてモニタリングも行っている。月1回のユニット会議でも、利用者全員を対象としたカンファレンスを行い、モニタリングに活かしている。計画作成担当者を中心に医療関係者の意見を有効に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた内容を記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対し、早急な対応が必要な場合には、ミーティングを行い、迅速な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害時の避難協力を町内の自治防災組織に依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には24時間対応しているクリニックをお願いしている。時間問わず対応して頂いている。	往診は2週間に1回。入居時は24時間対応の提携医がほとんどだが、以前からのかかりつけ医を継続される利用者も時にはいる。転院するかどうかは選択でき、通院は基本、家族が送迎している。看護師が医療に関しては受け持ち、協力医と連携しながら利用者に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かな変化も看護師に報告し、適切な診断が受けられるように連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院前には、カンファレンスを行い、退院後も対応が変わらないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、ご家族の意向に沿った支援が出来るよう、話し合いをし、出来る支援の説明等を行っている。	看取りは行っている。重度化の際は、医師と相談しながら、治療するかどうかで受け入れ態勢を調整している。入所時に、管理者が指針と共にグループホームで出来る事や状態が変化した際にはその都度毎、家族に詳しく説明をしている。また、年1回施設長及び看護師による看取り研修も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスク委員会作成の事故発生対応マニュアルを活用し、事故発生時はマニュアル通りに対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。	昼夜想定の下に、三密を考慮して柔軟に対応し、出来る範囲で訓練を開催した。備蓄は近所の本社で一括管理していて、緊急時には連絡網を実践形式で回していた。水消火器や救命機器の指導を受けたり、水害対策としてコンクリートの塀を作ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段の対応で満足しないよう、振り返りができるように定期的に研修を行っている。	基本は苗字を「さん」付けだが、利用者の好みに応じた呼び方をするときは、家族の了解を得てから呼ぶようにしている。また、プライバシー研修も年1回実施していて、大きな声や他の利用者に分かる言葉掛けをしないように配慮している。そして毎月のスタッフ会議で気づきを促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択ができるような声掛けをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせ、生活リズムが崩れないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事時には、お化粧したり、気に入った物を身につけてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き、手作り昼食の日を作ったり、外食やお弁当を買ってきたりしている。	月2回リクエスト昼食会を開催していて、楽しみを増している利用者が多い。敷地内の菜園でとれた野菜を盛り付け、季節を味わってもらっている。また、利用者と共におやつの手作りをして、どら焼きやケーキ、パフェと一緒に食し、楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の体調を見ながら量を調整したり、白飯をおかゆに変更したり、残されている場合は、ゆっくりと声掛けをしながら勧めている。自力で食べることが困難な方は、介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自力では困難な方は、介助で行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握や下剤服用を一人ひとりにあつた時間や内容にしている。	日中は車イスの利用者もトイレで排泄し、夜間は利用者に合わせてトイレ誘導やバット交換で対応している。利用者の排泄パターンを把握し、的確に薬を使う事で衛生材料の消費を少なくさせたり、状態を改善させたりしている。また、ポータブルトイレは使用しないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用するだけでなく、室内運動を行ったり、畑で採れた野菜を食べている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	スタッフのいる時間帯でなるべく好きな時に入って頂くようにしている。	入浴は週3回。希望すれば毎日の入浴も可能で、車イスの利用者もたつぷりと浴槽に浸かれ、もつたりとしたお湯を親しんで頂いている。入浴を拒む利用者は、時間を空け、適切な言葉掛けして誘導している。ゆず湯や入浴剤を使うこともあり、情緒を感じてもらえるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望、体調に合わせて昼夜逆転にならない程度で、適宜休息時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに最新の薬情報を入れ、誰でもすぐ分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かしながら、生活リハビリとして掃除や洗濯物干し・たたみ、食事準備等を行ってもらっている。また一緒に昔話をしたり、散歩に行ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の支援のもとでお墓参りに行ったり昔から飼っていたペットに触れ合う時間を設けたり、ご本人の必要、希望するものを職員と一緒に買い物に行ったりしている。	隣の公園や近隣へ行った際に交わつた人とあいさつをかわしたりして、日々を謳歌している。また一日一度は、玄関から外へ出ていただくような支援を重要視しているので、コロナの影響だから遠出が出来ないのではなく、畑の収穫を行うなどの身近にできることを取り入れて利用者には有意義な時間を過ごして頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は管理していないが、外出先での買い物では本人が支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をしたいと希望されれば、ご家族に確認をし電話をしている。ご家族よりはがきや手紙が定期的に届き、楽しみにされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースや玄関には季節の花を飾ったり、季節にあった作品を掲示している。	広いホールの天窗から差し込む眩しい光を布で遮り、明るさを調整している。三密が計りやすい広さがあるフロアなので、自分の好きな場所で寛いでいる様子が窺えた。ホールには利用者と一緒に作成した、いかにも金運が舞い込みそうな黄金の神社の模型があり、毎日楽しみにお参りや賽銭を投げ込む利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを置き、ゆっくりとする時間を過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	より家庭環境に近づけるよう、自宅で使用していた家具等持って来て頂いている。	介護ベットがレンタルでき、防災カーテンが常設されている。利用者の使い慣れたテーブルや椅子が置かれ、手紙やハガキ、家族写真などが利用者の励みとなっている。居室内で読書をしたり、ハーモニカを吹いたり、大正琴を弾いたりして、自分の時間を楽しく奏でている空間ともなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は基本的にバリアフリー構造となっているが、個々の状況に合わせた動線作りに努め、必要に応じてリビングや居室の模様替えを実施している。また生活歴に合わせベットやフロアマット等に対応している。		